

## 令和元年度 自己評価結果

川辺町第1こども園

評価項目	評価内訳(割合)	
	できている	できていない
1、総則	89.2%	10.8%
(1)教育及び保育の基本と目標	89.2%	10.8%
(2)特に配慮すべき事項	89.2%	10.8%
2、子どもの発達	96.1%	3.9%
3、「ねらい」及び「内容」	95.9%	4.1%
(1)健康	97.5%	2.5%
(2)人間関係	94.2%	5.8%
(3)環境	89.3%	10.7%
(4)言葉	94.6%	5.4%
(5)表現	86.0%	14.0%
4、低年齢児の保育実施上も配慮事項	93.7%	6.3%
(1)乳児期の保育に関する配慮事項	92.3%	7.7%
(2)満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	95.0%	5.0%
5、指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	92.1%	7.9%
6、研修と自己評価	86.5%	13.5%
7、子育て支援	89.8%	10.2%
合計割合	91.9%	8.1%

達成状況	できていること	できていないこと
1、総則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達の連続性を理解し、1人1人の発達段階に応じた支援、援助を行うよう努めている。</li> <li>・基本的な生活習慣が身につき、安全で健康に過ごせるような支援や環境設定を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の侵入や糞、尿の被害を防ぐ最善の手立てが出来ておらず、衛生面の配慮に欠けていた。</li> <li>・子どもが自ら食について家庭で話題に挙げる事ができるような指導計画や実施をしていかなければならない。</li> </ul>
2、子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと遊びや生活を共にする中で、1人1人の心身の状態を把握し、豊かな感性や知りたいと思う探究心が育つよう寄り添い教育・保育に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だち関係が上手く出来ない子に対し、保育教諭が、子ども同士の関わりの基盤となるような信頼関係を構築していかなければならないと感じた。</li> </ul>

3、「ねらい」及び「内容」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を感じられるような絵本や歌、自然事象に触れる機会を多く設けるようにし、活動や製作を行う上で導入としても取り入れられるようにしている。</li> <li>・歌や模倣遊びを積極的に取り入れ、表現する楽しさや喜びを感じられるようにし、音楽を身近なものとなるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を使った活動が一定期間しか行えなかった。もっと定期的に触れられるようにし、音楽表現やリズム遊びができるようにしていきたい。</li> <li>・様々な家庭環境の子どもが増えている。家庭に沿った支援や配慮がより必要である。</li> </ul>
4、低年齢児の保育実施の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども1人1人に優しく微笑みかけ子どもが保育教諭を信頼し、安心して過ごせるよう関わった。</li> <li>・オムツの処理を園で行い保護者負担の軽減や、衛生面での向上を図った。</li> <li>・SIDSには十分に留意し、午睡時には睡眠の様子を定期的に欠かさず確認しチェックを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候不順の際には室内でも安全に体を伸び伸びと動かし、心身ともに満たされるような環境設定や工夫が必要であった。</li> <li>・安心、安全の確保はどの年齢よりも徹底するべきである。</li> </ul>
5、指導計画作成にあつたの配慮すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画は教育課程に基づき作成を子どもの発達過程を考慮したねらいや、内容を設定している。</li> <li>・1日の活動や子どもの姿、成長など保育記録で毎日記述をし、反省や課題としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の大切さは確認して取り組んでいるが、地域社会との連続性を持たせるには、行事の見直しや今まで以上の地域の協力が必要であり、難しさを感じる。</li> </ul>
6、研修と自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価で課題を見つけ、解決のため自己研鑽している。</li> <li>・園外研修に参加したり、専門書を読んだりし、教育、保育に関わる様々な知識を習得したり技能の向上に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達保障や子どもの最善の利益を考え、研修に参加できたと感じるが、園内研修の充実については課題があるので積極的に参加できるとよい。</li> </ul>
7、子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て会議や、要保護児童対策地域協議会に出席し、地域の住民の声を聞いたり、関係機関との情報交換をすることができた。</li> <li>・地域の子どもについての保育ニーズを、把握しようと努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援の家庭があるので子育てについて保護者からの相談に応じ、適切な対応をする必要がある。</li> <li>・家庭での養育方針を知り、連携をとる必要がある。</li> </ul>

＜来年度取り組むべき課題及び提案＞

- 低いパーセンテージとなってしまった項目がいくつかみられた。子どもが人格形成を養う一番大切な年齢に携わっていることの自覚をもち、高い意識をもって教育・保育に努める。
- 子どもが主体的になって活動し、生きている実感や喜びを感じられるような援助や、環境の設定を徹底する。
- 室内外において遊びのコーナーを設定するなど工夫をし、充実した環境設定をしていく。
- 子どもが様々な楽器を使う機会を提供し、音楽に親しみをもち楽しめるよう工夫をする。
- 地域の伝統行事に参加する機会を持つ。
- 園内研修の充実。専門家を呼んでの研修や、公開保育の実践をしていく。